

# (一財)語学教育研究所 2022 年度講習会 講師プロフィール

## 相田 眞喜子 (あいだ まきこ) ③担当

小学校で、子どもたちが試行錯誤しつつ言語を獲得していくたくましい姿に感動をもらいながら、日々、汗をかきかき授業をしています。教員を目指す大学生に指導法の実践的な講義をする機会もいただき、刺激をもらっています。語研で共に研究し切磋琢磨し合う仲間がいることはとても心強いことです。小学生の子どもたちの学び方に寄り添って、中学以降の外国語学習の下支えとなる力をつける授業づくりを、皆さんともご一緒に考える機会を頂けたら幸いです。

## 浅野 伸子 (あさの のぶこ) ⑱⑳担当

今までにいろいろな学力層の都立高校を経験してきました。その間一貫して心掛けたのは、英語を理解したい、使いたいという生徒の希望を尊重することです。流行に振り回されることなく基本に忠実に授業を作る姿勢を学んだ語研で、明日の授業に悩む先生方の力になれることをうれしく思っています。

## 淡路 佳昌 (あわじ よしまさ) ④担当

高等専門学校で教員生活をスタートし、私立の大学に勤務した後、大学を辞めて念願の中学校教師として再スタートしました。約 10 年勤めて、再び大学に戻り、現在は大東文化大学外国語学部英語学科で英語の教員養成を担当しています。

## 入江 潤 (いりえ じゅん) ⑳担当

小・中学校英語教師、小学校担任・管理職としての 25 年間、本当にたくさんの素敵な人生観・教育観と子どもたちの深い魅力に出会わせていただきました。いただいた繋がりや学びは、子どもたちと社会のために、これから「教育支援」という形で返していきたいと思っています。(語研歴 27 年/語研理事/聖心女子大学グローバル共生研究所客員研究員/(一財)生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ/三省堂「CROWN Jr.」著作者)

## 大内 由香里 (おおうち ゆかり) ⑨⑳担当

大学で若林俊輔先生の英語科教育法の授業に衝撃を受け、中学校の英語教師を志しました。都内の公立中学校 6 校のべ 35 年を経験し、定年間近です。最近の標語は「温故知新」、パーマーの偉大さを日々実感しています。

## 粕谷 恭子 (かすや きょうこ) ㉑担当

私立小学校で英語を教え始めたら、思いのほかおもしろくてここまで来てしまいました。大学に籍を置いて教員養成の仕事をしています。卒業した学生が仲間になってくれるのがとても楽しみです。教員研修で出会う先生方と授業づくりに関われるのも大きな楽しみです。先生方にも子どもたちにも負担の少ない授業のあり方を提案できるよう、努めています。

## 草間 浩一 (くさま こういち) ⑤⑫⑰ 担当

武蔵高等学校中学校で教え始めて 35 年が経ちました。途中英国ニューカッスル大学に留学、学習スタイルを活かした CALL (Computer Assisted Language Learning) を研究し、PhD を取得しました。その後も個々の生徒の違いを考え続け、カウンセリング心理士、特別支援教育士の資格を取得しました。現在は UDL (Universal Design for Learning) の考え方を応用した授業実践に取り組んでいます。2018 年度からは早稲田大学の非常勤講師として特別支援教育の集中講座も担当しています。

### 久埜 百合 (くの ゆり) ③⑥担当

教科教育法で青木常男先生に、教育実習で福井保先生（第1回パーマー賞受賞者）と澤正雄先生にご指導いただいたのが出発点です。パーマーを招聘した澤柳政太郎が創立した成城学園初等学校で23年間、子どもたちに鍛えてもらいました。『ノッポさんの英語大すき』『えいごリアン 2000～2001』の制作にかかわり、視聴覚教材の大切さを学び、今はデジタル教材に凝っています。小中7年間にわたる英語教育の指導方法について、現場の先生方と考え合う毎日です。

### 久保野 りえ (くぼの りえ) ⑮担当

東京都江戸川区立南葛西中学校と筑波大学附属中学校で計32年間勤務。その間、高等学校や大学での授業も経験。現在は、都留文科大学、東京外国語大学等で、教員養成に関わる他、中学校での授業も継続している。2004年度パーマー賞受賞。

### 小菅 敦子 (こすげ あつこ) ⑩⑳担当

元東京学芸大学附属世田谷中学校主幹教諭。この間に多数回にわたり授業を公開、NHK ラジオ『新基礎英語1』（1994～1995年度）講師を勤める。現在は、武蔵野大学他にて教職の授業、英語指導に従事。1997年「パーマー賞」受賞。語学教育研究所常務理事。パーマー賞選考委員長。第5研究グループ（授業研究）主任。

### 小菅 和也 (こすげ かずや) ③④⑳㉓担当

千葉県立高校、東京都立高校、国立大学附属高校など、20年余り高校の現場を経験してきました。その後、大学に籍を置いて中高英語教員養成に携わり、2021年3月に武蔵野大学教育学部を退職しました。自治体の現職教員研修にも数多く関わってきました。語研には20代後半から、もう40年近くお世話になっています。教師としての自分は、語研に育ててもらったと思っています。

### 静 哲人 (しずか てつひと) ㉔担当

15年間、中・高・高专で教えた後、大学に移って25年目。大東文化大学で英語教員養成にあたっています。主に音声技能の向上のさせ方に関心があり、一斉授業内の個別指導方法としての「グルグルメソッド」、実際に英語の歌を歌わせることでの発音練習、のふたつを提唱しています。主著は『英語授業の心・技・体』（研究社）。学生支援センター所長なので、標語は『私、学生の味方です』。

### 杉内 光成 (すぎうち みつなり) ㉕担当

専修大学文学部英語英米文学科卒業、早稲田大学大学院教育学研究科英語教育専攻修了。大学院在籍時に2年間私立高校で非常勤講師を勤め、現在、獨協埼玉中学高等学校で教諭として9年間勤務。生徒とインタラクションをしながら知的好奇心をくすぐり、生徒が英語を楽しんで習得していく授業を目指している。中学校検定教科書 Here We Go! (光村図書) 編集委員。第26研究グループ（中学高校英語研究）主任。

### 砂谷 恒夫 (すなたに つねお) ㉖担当

東京都立高校6校に勤務しました。今は私立の高校と大学で非常勤講師をしています。語研では研究員と評議員をしています。以前に英和辞典と高校教科書の共同執筆をしました。意味のことについて特に興味関心があります。

### 栖原 昂（すはら たかし）⑩担当

教員になって12年、現在は筑波大学附属中学校で教えています。それ以前は東京都の公立中学校で勤務していました。100年以上前から「英語の授業は英語で」を基本としてきた現在の勤務校の伝統を受け継ぎつつ、常に英語教育のあるべき姿を模索する毎日です。小学校の教科化に伴い、英語教育における小学校・中学校の役割にも関心があります。

### 曾根 典夫（そね のりお）⑧担当

茨城県立高校・中等教育学校で4校勤務したのち、2015年より、筑波大学附属高校に勤務し、現在に至ります。検定教科書を軸にした授業を展開しています。特に、授業冒頭の5分間をどのように惹きつけるか、生徒視点からの授業改善に日々取り組んでいます。

### 津久井 貴之（つくい たかゆき）⑩担当

国公立中高、中等教育学校、教育委員会と様々な職場で英語教育に関わってきました。今年度より母校の群馬大学で教員志望の学生を指導しています。現在は、東京外国語大学、大妻中学高等学校非常勤講師を兼任しながら中高の言語活動や教師の役割について研究しています。主な共著書は中高検定教科書『NEW CROWN』、『CROWN』（三省堂）など。2011年度パーマー賞受賞。

### 手島 良（てしま まこと）⑬⑭担当

武蔵高等学校中学校の教員です。関心はフォニックス、文字指導、発音指導、そして文法シラバス。いくつかの大学で「教科教育法」「教育演習」なども担当（非常勤）してきました。著書に、検定教科書『EXPRESSWAYS 1』（英語表現Ⅰ。共著、開隆堂）、『これからの英語の文字指導—書きやすく読みやすく』（研究社）、『英語の発音・ルールブック』（NHK出版）、『通じる英語の発音ドリル』（研究社）などがあります。

### 永井 淳子（ながい じゅんこ）⑦担当

私学の中高一貫校で5年間英語科専任教諭として勤務したのち、東京都市大学付属小学校（旧東横学園小学校）の英語科講師となり、今年で30年目になります。他に、青山学院大学・東京学芸大学で非常勤講師として教職課程（小学校英語）の講座を担当しています。子どもたちや学生と過ごす時間の中で、日々多くの刺激を受け、学びを得ることができ、感謝しています。

### 八宮 孝夫（はちみや たかお）②担当

30年間中高一貫校で英語を教え、中高6年間を通して担当した経験が2度あり、それを基に「私教版中高6年間の英語カリキュラム」を作成しました。筑波大学にて、教育実習事前指導講師を数回務めた経験があり、現場でも教育実習生をたびたび指導しています。昨年度は新課程の中学3年生の英語を（LL およびティーム・ティーチングも含め）担当しました。今回の講座はその実践をベースに行う予定です。

### 馬場 千秋（ばば ちあき）⑨担当

帝京科学大学で小・中・高の英語教員養成に携わっています。専門は、英語ライティング指導と評価、英語授業学、英語リメディアル教育です。英語に苦手意識を持つ学生から英語アレルギーを取り除き、好きになってもらえるよう、日々、奮闘しています。大学では学生に寄り添う「大学のお母さん」でもあります。

### 日高 由美子（ひだか ゆみこ）⑳担当

教員生活が30年を超えました。中高一貫校の私立の女子校で25年、区立の中高一貫校で2年、都立の中高一貫校で5年目になります。どの学校でも英語の授業で常に心がけていることは同じです。活動の縦軸として、教科書の題材内容に中心を置くこと。指導の根本にあるのは、授業で生徒に「リアリティーを感じさせる」ということです。

### 松沢 伸二（まつざわ しんじ）㉔担当

新潟県の公立中学校、東京都の私立女子高、国立医療技術短期大学部で教えた後、現在の教育学部で英語の教員を養成しています。母校で後輩を育てているため、つい力が入り過ぎます。学外では、コミュニケーション・ティーチング研究会の代表幹事、関東甲信越英語教育学会会長、中学教科書 New Crown の著者等をしてきました。定年退官する本年度も、学部学生の指導や地元の小中高の先生方の研修のお手伝いに力を注いでいます。

### 松原 木乃実（まつばら このみ）㉑担当

小学校で英語を教えるようになって間もなく、語研で研究されている先輩方の英語教育に関する考え方やその授業実践に触れて、「目からうろこ」でした。以来、語研で、子どもたちが何をどのように学ぶのか、どのような指導で子どもたちは力をつけていくのか、仲間の先生方と研究したことを自分の授業で実践し確認したり、教員を目指す学生さんたちに伝えたりする毎日です。皆様方とも一緒に考え合うことができたなら幸いです。

### 矢田 理世（やだ まさよ）㉒担当

大学卒業後、私立の中高で元気な男子集団相手に奮闘する日々から教員生活が始まりました。働きながら大学院へ通い MA TESOL を取得。検定教科書を軸に、学校でだからできることを最優先に据えて、生徒たちの個性を活かせる授業を目指しています。学校の仕事に加え、これまでに大学の教職課程の授業を非常勤で5年間担当しました。「英語表現 / 論理表現」など検定教科書の執筆もしています。2019年度パーマー賞受賞。

### 山崎 勝（やまざき まさる）㉓㉔担当

語研の研究者としてオーラル・メソッドを学んで20年以上が経ちました。埼玉県公立高校で勤務して3校目になります。最近、オーラル・メソッドを基礎に、段階的な指導による無理のないアクティブ・ラーニング（CLIL・協調学習）の実践を追求しています。

### 吉澤 孝幸（よしざわ たかゆき）㉗担当

秋田県内の中学校に勤務して33年が経ちます。振り返ると、教室だからこそできる実践研究を少しずつ行ってきました。中学校の新学習指導要領の改訂にも関わらせていただき、その趣旨を自分の授業を通して実現したいと思いながら毎日取組んでいます。2018年パーマー賞受賞。

### 吉田 章人（よしだ あきと）㉘担当

1999年より日本女子大学附属高等学校に勤務し、現在に至る。2005年より8年間、日本女子大学にて「英語科教育法」を担当。「英語コミュニケーションⅠ」「コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ」の検定教科書執筆にも携わっている。